

人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的（2024 年度）

経済学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

（人材養成に関する目的）

経済学部は、学修を通して自分の考えをつくりあげ、社会の持続的な発展と自ら進んで人びとの福利に寄与できる人材、地域の産業界や地方公共団体などで活躍する人材、国内外で活躍する人材の養成を目的とする。

（教育研究上の目的）

経済学部は、将来の目標を意識して学生が選択する「地域・国際・金融・公共」の4クラスターにおいて、経済学の基礎から応用・実践までを系統的に学び、グローバルな視点と地域的な視点を身につけることを目的として教育・研究をおこなう。

商学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

（人材養成に関する目的）

《商学部》

商学部は、建学の理想である「産学一如」と建学の理念である「市民的自覚と中道精神の振興」「実践的な学風の確立」のもと、幅広い教養と商学・経営学・会計学・情報学及び関連する学際的領域の学びを通じて、広く産業界の期待に応えられる「実践力」、「熱意」、「豊かな人間性」を持ち、激しく変化する時代に主体的に対応できる人材を養成する。

《経営・流通学科》

経営・流通学科は、幅広い教養と企業経営、ファイナンス、会計、マーケティング、国際ビジネス、社会情報の専門的・実践的知識の学びをもとに、「地域産業の発展を通じて地域活性化に貢献できる人材」、「激しく変化する現代社会をたくましく生き抜ける人材」を養成する。

（教育研究上の目的）

《商学部》

商学部の教育研究上の目的は、幅広い教養を身につけるとともに、将来のキャリアと地域社会のニーズに基づき設置した「多様なコースでの専門的知識の学習」と「九州・アジアの地域社会・行政・企業を対象とした実践的な学び」を通じて、ビジネスに関わる課題を自ら発見できる能力、幅広い視野から解決策を提案できる能力、周りを巻き込み実行できる能力を学生に習得させることである。

《経営・流通学科》

経営・流通学科の教育研究上の目的は、九州・アジア地域を実践的な学びの対象として重視しながら、①幅広い教養と職業人として必要な基礎的知識、②企業経営、ファイナンス、会計、マーケティング、国際ビジネス、社会情報の専門的知識、③問題設定能力・問題解決能力、④行動力・やり遂げる力、⑤コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を学生に習得させることである。

地域共創学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

(人材養成に関する目的)

《地域共創学部》

地域共創学部は、様々な地域社会の持続可能な発展のために、豊かな構想力と人間性を育む教養と地域社会の多様な人々との連携に基づき、共創による実践力を備え、課題解決策を企画・立案することができ、新しい価値を創造できる人材を育成する。

《観光学科》

観光学科は、観光の学際的理論と実践的教育の特徴を活かし、グローバル、地域、ビジネスの多面的視点からの学びを深め、九州・アジアの観光関連業界で活躍できる幅広い教養と多様な価値観や国際感覚、実務能力を身につけた人材を育成する。

《地域づくり学科》

地域づくり学科は、地域の社会文化的知識と、持続可能な地域社会の創出に関わる幅広い分野の専門的知識の習得・実践を通じて、地域の人々との協働を通じて自らの住む地域の未来の共創に貢献できる人材を育成する。

(教育研究上の目的)

《地域共創学部》

地域共創学部の教育研究上の目的は、社会科学における基礎的な知識及び学際的な視点をベースに、「地域」「観光」分野の新たな価値を創造し、持続可能な社会の実現に求められる知識・スキル・人間性を習得することを教育研究の目的とする。地域社会を多角的に理解し、貢献できる「創造力」「行動力」を育み、「専門知識」を活かした「問題発見能力」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」を養うための理論と実践を融合させた教育を実施する。

《観光学科》

観光学科の教育研究上の目的は、将来のキャリアと地域社会のニーズに基づき設置した二つのコース（ホスピタリティ・ビジネス、観光地域デザイン）による理論の学習と実践的、発展的な学びを通して、広く地域社会へ貢献できる「専門知識」「問題発見能力」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」を学生に習得させることである。

《地域づくり学科》

地域づくり学科の教育研究上の目的は、自らの生きる地域社会を多角的に理解した上で、地域社会における課題を自ら見出し解決策を企画するための調査能力、課題に対して積極的に取り組むコミットメント、地域の人々を協働へと巻き込むリーダーシップ、そして自らの学びに自覚的になることで更なる成長を遂げるための自省的姿勢を身につけるための研究・教育を行うことである。

理工学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

(人材養成に関する目的)

《理工学部》

理工学部では、九州地域に展開されている自動車製造業・半導体製造業・ロボット産業をはじめとする情報メカトロニクス分野において貢献できる汎用的な知識と技術力を備えた中核的技術者の養成を目的とする。

《情報科学科》

情報科学科では、現代社会を支える情報技術及び情報数理の基礎を確実に身に付け、高い倫理観を持った職業人として社会に貢献できる能力を持つ人材を養成する。また、情報分野を基盤とした機械工学や電気工学の分野において情報技術及び情報数理を適切に活用できる能力を持つ人材を養成することを目的とする。

《機械工学科》

機械工学科では、情報メカトロニクス分野における地域の発展に寄与するため、機械、ロボット、メカトロニクス分野の仕事で必要とされる基礎学力、ロボット、メカトロニクスを含む機械工学の基礎及びコミュニケーション能力を身に付けた汎用的な知識と技術力を備えた中核的技術者を養成する。また、これまでの機械工学科が推進してきたモノづくり教育に加え、実践的なプロジェクトデザイン教育を導入することで、地域社会の発展のために大学での学修成果を継続して生かすことのできる人材を養成することを目的とする。

《電気工学科》

電気工学科では、エネルギー及び環境の問題に対応し、生活に欠かせない電力と電力を作るエネルギー源、電力エネルギー設備を制御する情報通信ネットワーク、電力変換回路を構成する半導体デバイス（エレクトロニクス）、更に、将来技術として期待される超伝導、電子材料等に関する電気電子技術の習得を目指して教育・研究を行う。そのため、工学の基礎及び電気電子工学分野に関する専門基礎教育を重視し、更に、学生の将来の進路に合わせて資格取得サポートを行うカリキュラムを用意し、社会構造の変化に対応でき、実践的で柔軟な発想力を持ち倫理観を併せ持つ人材を養成することを目的とする。

（教育研究上の目的）

《理工学部》

理工学部では、社会と文化の創造に貢献できる人材を養成するために、情報科学・機械工学・電気工学及びこれらを横断・融合した情報メカトロニクス分野における理論と技術（専門技術力）、高い知性と豊かな感性を持ち社会で活躍できる力（社会実践力）を習得することで、卒業する学生一人ひとりに自信と達成感を持たせることを教育研究上の目的とする。

《情報科学科》

情報科学科では、情報技術を中心に学修する情報技術コースと伝統的な数学を系統的に学び、更に、情報数学を学修する情報数理コースの2つのコースを設置する。情報技術コースには、国際的に通用する技術者教育プログラムを用意し、情報技術の基礎を確実に身に付け高い倫理観を持った職業人として社会に貢献できる能力を身に付けることを到達目標としている。一方、情報数理コースでは、伝統的な数学として、微分積分、線形代数、確率統計等を学び、数学的な基礎を確かなものとし、また、情報数学としてコンピュータと共に発展してきた数学の分野である離散数学、数理論理学等を学修し、中学校や高等学校等の純粋数学の教育者として、あるいは数学と情報の応用分野の職業人として社会に貢献できる能力を身に付けることを教育研究上の目的とする。

《機械工学科》

機械工学科では、ロボット、メカトロニクスを含む機械分野の仕事に必要とされるデザイン能力の習得を目標とする。工学におけるデザインとは、企画、仕様、設計、加工、組立及び検査に至るモノづくりにおける総合的な能力を示している。総合的な基礎学力からロボット、メカトロニクスを含む機械工学の基礎までを段階的に学び仕事に生かせるように、座学のみに偏らず実験・実習を積極的に取り入れた体系的なカリキュラムを編成することで、創造性豊かな専門技術者を育成することを教育研究上の目的とする。

《電気工学科》

電気工学科では、電気回路・電磁気に関する専門基礎の理解の上に、電気エネルギーコースでは電力と情報通信に関連したエネルギー及びシステムに関する高度な専門知識と技術を学び、また、通信システムコースでは情報通信に関連したエネルギー及びシステムに関する高度な専門知識と技術を学び、これらを実務に適用し得る能力を習得していること並びに論理的に説明・討論するコミュニケーション能力と技術者倫理を身に付けることを教育研究上の目的とする。

生命科学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

（人材養成に関する目的）

生命科学部では従来の「化学」及び「生物」分野の教育を基盤としつつ、次世代をリードし、これから発展する分野である「生命」及び人類の生存基盤である「食品」の両分野を加え、それぞれの分野で活躍できる知識と技能を持った人材の養成を目的としている。また、生命科学科では、ナノサイエンス、ライフサイエンス及びフードサイエンス関連の分野で活躍できる知識と技能をもった専門性の高い人材育成を目的としている。このため、生命科学科を「応用化学コース」「生命科学コース」「食品科学コース」に分けて、それぞれのコースにおける知識・技術の習得が可能なカリキュラム編成により、各分野の産業界等において活躍・貢献できる人材を養成することを目的とする。

（教育研究上の目的）

生命科学科では、「応用化学コース」「生命科学コース」「食品科学コース」のそれぞれの専門分野において、企画・研究・開発・生産・品質管理等幅広い専門知識と実践的技術の習得を教育研究上の目的とする。

建築都市工学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

（人材養成に関する目的）

《建築都市工学部》

建築都市工学部は、建築学科、住居・インテリア学科、都市デザイン工学科のそれぞれの基礎的な教育に加え、学際的な教育を推進し、産官学の連携や国内外の大学・研究機関との共同研究や人材交流を行う。それらの取り組みを通じて、国土強靱化、インフラストラクチャ及び建築物の長寿命化、住環境ストックの有効利用等、建築学・住居学・土木工学に跨る広範な学修を行い、安心・安全で、美しく、自然に配慮した快適な人間生活の器としての建築と都市について、経済性を考慮しながら、偏りなくバランスのとれた計画・設計を行い、その生産と維持管理、運営に貢献できる能力を育成することを人材養成の目的とする。

《建築学科》

建築学科では、「安全で美しく快適な人間活動の器としての建築や都市を、経済性を考慮しながら計画・設計し、築き、運営することができる能力」及び「高度な専門知識を実務に適用し得る能力」を身に付けさせることを人材養成の目的とする。そのため、建築学科では、計画・環境・構造の建築3分野をバランス良く学べるように、建築士等資格取得を目指す建築学科建築基本コースと、グローバル人材としての建築技術者育成を目指す建築学科建築総合コースを設け、ハード・ソフト両面からの専門教育を展開し、一級建築士取得を重視した教育を行う。

《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科では、建築都市工学部における住居・インテリア領域の中でも、①人々を包み込む基本的な空間、②人々が住まう住居、③オフィスや商空間といった業務系施設のインテリア、④住居と業務系施設を複合した住居系複合施設のインテリアの4つを対象を絞り込んだ設計教育を設計基幹科目として位置づけ、住居・インテリア領域における上記の4つを対象とした設計の専門家たる人材養成を目的とする。そのため、住居・インテリア学科では、1・2年次に設計基幹科目とともに、住居・インテリア領域の基盤となる科目を学修し、3年次前学期からのアドバンスト科目で住居・インテリア領域における個別の専門的若しくは総合的知識及び技術・技能の学修を行い、実践力を培うことを重視した教育を行う。

《都市デザイン工学科》

都市デザイン工学科では、都市基盤構造物の建設に関する幅広い知識を修得させ、安心・安全で、美しく、自然に配慮した都市や公共施設の計画・設計・施工や維持管理に貢献できる能力を身に付けさせることを人材養成の目的とする。そのため、都市デザイン工学科では、土木工学の基礎を学んだうえで、都市防災分野等の社会的要望の大きいテーマを幅広く学べることを特色とし、「土木デザイン」、「都市防災」、「まちづくり」、「環境緑化」を主体にした履修モデルを設けるとともに、JABEE 対応の都市デザイン工学科都市デザイン工学応用コースでは総合的な土木技術者の育成を目指して、多様な社会のニーズに応えることを重視した教育を行う。

（教育研究上の目的）

《建築都市工学部》

建築都市工学部では、幅広い教養と建築学、住居・インテリア学、都市デザイン工学に関する専門的知識を備え、適切に活用できる能力、論理的に思考し、判断することのできる能力、当該分野に関する技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる能力、多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会の発展に貢献する能力、広い視野を持って、主体的に他者と協力する能力を備え、多様な社会のニーズに応えることのできる実践的能力を学生に修得させることを教育研究上の到達目標とする。

《建築学科》

建築学科では、建築設計・計画・歴史・意匠、建築構造・材料・構法、建築環境・設備、都市計画に関する専門的知識を備え、適切に活用できる能力、論理的に思考し、判断することのできる能力、当該分野に関する技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる能力、多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会の発展に貢献する能力、広い視野を持って、主体的に他者と協力する能力を備え、多様な社会のニーズに応えることのできる実践的能力を学生に修得させることを教育研究上の到達目標とする。

《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科では、①人々を包み込む基本的な空間、②人々が住まう住居、③オフィスや商空間といった業務系施設のインテリア、④住居と業務系施設を複合した住居系複合施設のインテリアの設計に関する専門的知識を備え、適切に活用できる能力、論理的に思考し、判断することのできる能力、当該分野に関する技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる能力多様な人々コミュニケーションを行い、熱意を持って社会の発展に貢献する能力、広い視野を持って主体的に他者と協力する能力を備え、多様な社会のニーズに応えることのできる実践的能力を学生に修得させることを教育研究上の到達目標とする。

《都市デザイン工学科》

都市デザイン工学科では、安心・安全で、美しく、自然に配慮した都市や公共施設の計画、設計、施工、維持管理に関する専門的知識を備え、適切に活用できる能力、論理的に思考し、判断することのできる能力、当該分野に関する技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる能力、多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会の発展に貢献する能力、広い視野を持って主体的に他者と協力する能力を備え、多様な社会のニーズに応えることのできる実践的能力を学生に修得させることを教育研究上の到達目標とする。

芸術学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

（人材養成に関する目的）

《芸術学部》

多様化する新しい時代の要請に応え地域から世界に至る人類社会の発展に貢献するために、芸術表現学科、写真・映像メディア学科、ビジュアルデザイン学科、生活環境デザイン学科、ソーシャルデザイン学科で構成し、「産学一如」の建学の理想のもと地域産業との連携や国内外の大学との共同研究や人的交流を積極的に推し進め、社会と文化の創造に貢献できるアーティスト、デザイナー、写真家等のクリエイターや研究者・教育者を養成する。

《芸術表現学科》

新しい絵画表現と立体造形表現を模索し、現代アートなどを提案する作家を養成し、なおかつメディアアート、マンガ、ゲーム等の新規領域を加え、広く多彩な領域を網羅する先端芸術を担う人材を養成する。

《写真・映像メディア学科》

多様化する社会に対応するため、豊かな想像力と行動力を基に最新の撮影技術や処理技術を用いて、表現の可能性を最大限引き出せる様々な撮影現場への対応と、作品表現を通して社会へ発信できる写真・映像メディア分野の専門家を養成する。

《ビジュアルデザイン学科》

アナログとデジタル双方の表現技術を用い、社会に貢献できるデザイナー、アートディレクター、アーティスト等のビジュアルコミュニケーションのプロを養成する。

《生活環境デザイン学科》

プロジェクト型教育など社会との関わりの中でデザインを検討し実施する機会を設け、それらへの参加を奨励し、地域社会や産業の中でデザインの役割を実感しながら学習することを通じて、実践的な能力と幅広い視野を持った人材を養成する。

《ソーシャルデザイン学科》

デザインの持つ情報発信力を基にIT 技術や企画技術を用いて、地域や地域産業と積極的に連携していくソーシャルデザイン分野の専門家を養成する。

（教育研究上の目的）

《芸術学部》

社会と文化の創造に貢献できる人材を養成するために、芸術の各分野における理論と技能を兼ね備え、高い知性と豊かな感性を持つ専門能力の習得を目指しており、芸術に関する基盤的な知識と各専門分野の教育を行い、「基礎的教養」「専門的知識」「論理的思考力」「実践力」「コミュニケーション力」「主体的行動力」を身に付けさせることを教育研究上の目的とする。

《芸術表現学科》

芸術表現分野の専門家として必要な「造形力」や「審美力」を養う。地域やグローバル社会へ向けて文化貢献ができることを目指し、伝統的な表現と次世代の表現を担う画家、造形作家、フィギュア作家、メディアアーティスト等を目指すことを教育研究上の目的とする。

《写真・映像メディア学科》

写真・映像メディア分野の専門家として必要な「想像力」や「行動力」を習得させることを教育研究上の目的とする。

《ビジュアルデザイン学科》

情報技術の進展に対応したデジタル機器を備えた教育環境のもと、実習・演習を中心とした授業を通して、現代または将来の社会要請に応えることができる実践的なデザイナー能力を習得させることを教育研究上の目的とする。

《生活環境デザイン学科》

「造形力」、「構成力」、などを身に付け、その分野の高度な専門家としての人材を養成する。より幅広い領域にも応用できるデザインのマインドも養い、実践力のある柔軟な人材を養成することを教育研究上の目的とする。

《ソーシャルデザイン学科》

ソーシャルデザインに欠かせない「問題発見能力」と「解決提案能力」という2つの能力の習得することを教育研究上の目的とする。

国際文化学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

（人材養成に関する目的）

《国際文化学部》

国際文化学部は、日本とアジア・欧米諸国の言語・文化・歴史についての専門的な知識、およびこれらの文化体験をもとに、グローバル社会に対応できる豊かなコミュニケーション力と主体性・協調性、問題発見・解決のスキルをそなえた国際的な人材を養成する。

《国際文化学科》

国際文化学科は、実践的な英語力とアジア・欧米諸国の言語・文化・歴史の理解に根ざした国際教養をもとに、グローバル社会において卓越した英語コミュニケーション力、豊かな教養、他者と協調する態度、問題発見や解決力をもって活躍できる人材を養成する。

《日本文化学科》

日本文化学科は、日本の文学・言語・歴史・民俗についての専門的な知識、および日本文化の現地学習や異文化交流体験をもとに、国際化が進む地域社会に主体性・協調性・行動力をもって貢献できる人材を養成する。

（教育研究上の目的）

《国際文化学部》

国際文化学部は、世界と日本の文化に関する共通科目群、言語・文化に関する多彩な専門科目群、および創造力・指導力・コミュニケーション能力を養成するゼミナール系科目群を通して、グローバル化する現代社会に対応できる教養と、専門的な知識と技術を習得させることを教育研究上の目的とする。

《国際文化学科》

国際文化学科の教育研究上の目的は、高度な英語コミュニケーション力とアジア・欧米諸国の言語・文化・歴史の理解に根ざした国際教養を身につけることにより、グローバル社会を生き抜くための多角的な視点、卓越した英語力、他者と協調する姿勢、問題発見や解決のスキルを習得させることである。

《日本文化学科》

日本文化学科の教育研究上の目的は、日本文化を文学・言語・歴史・民俗といった多角的かつ専門的な見地から理解するとともに、グローバルな視野から異なる文化や価値観を尊重する姿勢を身につけることにより、日本の文化の魅力や課題を発見・解決するための実践力を習得させることである。

人間科学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

（人材養成に関する目的）

《人間科学部》

大学全体の教育目標である、深い教養に裏打ちされたグローバル化に対応できる心身共に健全な人間を育成することを、先ずは基盤とする。

その中で、人間科学部においては、「人間性の尊重」を基本理念に、乳幼児期（こども）からの人間の成長及び発達過程を「こころ」と「からだ」の両面から多角的かつ科学的に探究し、「人を支える人」を育て、地域社会に貢献できる人材を養成する。

《臨床心理学科》

臨床心理学や精神保健福祉学の知識を活かし、コミュニティの勤労者、児童、若者、高齢者、障害者等を支援できる人材、精神保健福祉士として精神障害及び障害のある人や、その他社会的要援助者を支援する人材、大学院に進学して公認心理師や臨床心理士を目指す人材を養成する。

《子ども教育学科》

乳幼児期が生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、健常児だけでなく、特別な支援が必要な子どもが増加している現代社会の課題にも応えるべく、全ての子どもに対して、適切な支援や質の高い保育が実践できる人材を養成する。

《スポーツ健康科学科》

自ら健康であると共に、産業界に貢献できる高い水準のスポーツ健康科学に関する知識を有し、スポーツの振興と発展を担うことのできる人材、また、スポーツを通じた地域コミュニティの形成と発展に携わり、地域社会の健康づくりに貢献できる人材を養成する。

（教育研究上の目的）

《人間科学部》

人間科学部を構成する３学科間の共通のテーマは「“人を支える人”を育てる」である。この共通のテーマを念頭に、人間科学部においては、人間を科学する観点から、「こころ」と「からだ」と「こども」の三分野において、人間理解のあり方、人間の発育や発達過程、保育学、スポーツ科学や健康科学の専門知識や研究・実践法を学び、人を支えるために必要な実践的専門知識と技能を習得させることを教育研究上の目的とする。

《臨床心理学科》

臨床心理学や精神保健福祉学の知識を実践に適用できる能力、優れたコミュニケーション能力をもって心の問題に対して深い理解と援助ができる能力、他者の心理を深く理解し、自己啓発を継続して行うことができる能力を習得させることを目的とする。

《子ども教育学科》

子どもを一人の人間として尊重し、乳幼児期が人間教育の基盤となる重要な時期であるとの子ども観・保育観の形成のために、乳幼児の心理学と保育学・教育学をベースとして、保育士資格及び幼稚園教諭資格の取得に必要な能力を習得させることを目的とする。また、特別な支援が必要な子どもを教育できる実践力を養成するために、特別支援教育に必要な専門的能力の習得も目的とする。

《スポーツ健康科学科》

「スポーツ」「健康」「ビジネス」「指導者」等をキーワードとして、スポーツ健康科学に関連する多彩な進路に対応可能なカリキュラムを編成し、健康マネジメント（健康経営）感覚をも含めた専門的能力と実践的スキルを習得させることを目的とする。

GFBP の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

（人材養成に関する目的）

GFBP では、所属する学部、学科の目的を基盤として、食品の開発・製造・流通及び経済学・経営学に関する深い知見を培い、食をグローバルな視点から国内外のビジネスへつなげる高度なマネジメント能力と実践的な行動力を備え、グローバル化が進むフード産業で活躍できる人材を養成する。

（教育研究上の目的）

GFBP では、所属する学部、学科の目的を基盤として、「食」と「ビジネス」に関する専門的な知識をグローバルな視点で有機的に関連付け、現実の社会と結びつける能力を育成するために、学問的領域を超えた横断的な知識と発想力を学生に習得させることを教育研究上の目的とする。